

みみょう幼稚園だより



～子どもに選択の機会を～

汗ばむ日、肌寒い日を繰り返しながら衣替えの季節を迎えました。体調不良を訴える子どもさんも多くなる時期でもあります。表情の変化等にも、しっかりと気を配っていききたいと思います。

さて、本園では、「感謝と思いやりのある、主体的に行動する子どもの育成」を主軸とした保育を進めており、国の教育改革においても、主体性の重要性が叫ばれていることについては、折に触れ、お伝えさせていただいているところです。本年度は、『選択と集中、状況判断』をキーワードに、保育の質の向上を目指しています。「選択と集中」といいますと、ビジネスの世界での、強みや得意分野に特化した企業戦略をイメージされる方も多いかもかもしれません。私たちが大切にしている『選択』とは、子どもの主体的な選択の機会、やりたい、やってみようと、意欲を持ってあそびやあそび方を選ぶ行動のことを指しています。もっと細かく言うと、例えば、新聞紙を目の前にした時、その遊び方は無限に広がります。上に乗ってみる、折りたたむ、破る、丸める、筒状にする…。用具を使うとさらに、発展していきます。パス、カラーペン、絵の具などで、模様や彩色を施し、のりやテープで、違う素材とつなぎ合わせることで、より多様な姿に変えていくこともできます。さらには、投げ、飛ばす、身にまとう等、動きが加われば、活動空間もどんどん広がっていきます。

子どもたちは、どんな素材でも、玩具でも、出会った瞬間、手に取り、次にどうしていくか、一瞬の間に、心を、知恵を、指先を、これまで見たり感じたりしながら実際の体験から得た力を、総動員させます。『選択』とは、そうした瞬間瞬間に、好奇心や意欲を持ちながら、やってみよう、工夫してみようと、積極的に行動を起こす姿勢や態度を高めることと捉えています。そして、豊かな『選択』の繰り返しによって、主体的な態度や能力が伸びていくのです。また、そのためには、幅広い選択肢の用意が必要となります。到達点やそこに至るまでの経路を、大人が決めてしまわないようにすることも重要です。私たち大人は、成功や失敗も繰り返しながら、様々な事象の到達点を経験しています。経験をたくさん重ねているからこそ、予想が立ち、想像することもできるようになっています。それがゆえに、選択の幅が狭まっているともいえます。子どもが成功するようにと、失敗しないようにと、転ばぬ先の杖を与えすぎてしまうことも往々にして見られます。製作あそびなどにおいても、パーツを用意し、みんなに同じように整った完成品を作らせることも、子どもの主体的選択や創造力や発想力を阻止することにもなりかねません。もちろん発達に応じた練習は必要ですから、同じ材料を用意して、同じ作業をしてもらうこともたくさんあります。その練習が、様々な場面で生かされることが大事です。子どもたちが、練習で得た力を、自分たちの使いたい時に、しっかりと発揮できるようにさせなくてはなりません。アクティブラーニングとは、まさにそうした経験の積み重ねをさせることといえます。そして、子どもたちが自分の発想で、自分の表現や工夫をしたときに、まさにピンポイントで、その部分をしっかりと評価できるように、

寄り添っていくことが、私たち大人の大切な務めであることも忘れてはならないでしょう。子どもに選択の機会と環境をしっかりと与えていくことが、保育の質の向上の第一歩であると考えています。 園長 三上 玲子



バザー収益で購入した用具棚
いつでも、好きな材料が選べます。